いつのまにやら本の虫

出久根達郎

いつのまにやら本の虫

出久根達郎

講談社

出久根達郎（でくね・たつろう）
1944年、茨城県生まれ。1973年から東京都杉並区で古書店を営む。1992年『本のお口よごしですが』で講談社エッセイ賞を、1993年『佃島ふたり書房』で直木賞を受賞。著書に『たとえばの楽しみ』『逢わばや見ばや』『おんな飛脚人』『猫の似づら絵師』など多数。

いつのまにやら本の虫
一九九八年十月十五日　第一刷発行
著者——出久根達郎

© Tatsuro Dekune 1998, Printed in Japan
発行者——野間佐和子
発行所——株式会社講談社
東京都文京区音羽二—一二—二一　郵便番号一一二—八〇〇一
電話
文芸図書第二出版部（〇三）五三九五—三五〇五
書籍第一販売部（〇三）五三九五—三六二二
書籍製作部（〇三）五三九五—三六一五
印刷所——豊国印刷株式会社
製本所——牧製本印刷株式会社

定価はカバーに表示してあります。
本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。
落丁本・乱丁本は小社書籍製作部あてにお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。
なお、この本についてのお問い合わせは文芸図書第二出版部あてにお願いいたします。

N.D.C.914 302p 20cm ISBN 4-06-209405-3（文2）

いつのまにやら本の虫　目次

I

蔵書目録 12
隠し書棚 13
いくらぐらい 14
通夜の客 15
ヒョウタンから駒 16
ホコリの匂い 17
しゃれ 18
明治の世 19
妙な告示 20
風呂敷 21
本を読まない生活 22
私家版 23
忌諱 24
何冊でも自由 25
風景 26
後ろめたい 27
値踏み 28
買戻すすべ 29
母の本棚 30
書斎 31
読む仕事 32
身すぎ世すぎ 33
朝の読書 34
魔法 35
封切 36
漱石の夢 37
古書展の美智子さま 38
長いもの 39

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

吉報 40
書物 41
マッチ 42
朗読 43
本盗人 44
帯 45
三島と浪曲 46
遺稿集 47
お弁当 48
おもいやり 49
わしに貸せ 50
本の器 51
ギックリ腰 52
正誤表 53
銅は鋼 54
書店員 55
落ち着く 56
枕の書 57
難解な文 58
線香 59
猛勉 60
だじゃれ 61
詩人の手紙 62
夢 63
蔵書の売価 64
道造の蔵書 65
約一千円 66
巣鴨の夏 67
絵本の傷み 68
だらしない 69

愛 70
愛読書 71
驚く 72
二十歳の中也 73
刑事のカン 74
さし絵展 75
振込用紙 76
腰越文庫 77
やんばうさん 78
イイニホヒ 79
比べ見る 80
誤植 81
苦情 82
究極の読書 83
お礼 84
朗読 85
初読書 86
安い正月 87
星新一氏 88
つまらない 89
文学展 90
目の輝き 91
奥付の表記 92
書物の礼法 93
ぬくとい本 94
古本屋物語 95
玉と石 96
同情 97
麻薬 98
ある序文 99

誕生日発行 100
夫婦別姓論 101
ズサン 102
ジャック少年 103
誤植 104
『晩年』 105
「思ひ出」 106
本の話 107
供えもの 108
一級資料 109
移動形式 110

II

湿けた雑誌 112
やんぬるかな 114
端本の使い道 116
前途多難 118
倫敦の古本屋 120
そっくり 122
写真のかわり 124
読後感 126
役者 128
時代が変る 130
善意 133
本の写真 135
誤植 137
本の悲鳴 139
話の場 141
書店の「たより」 144
変装 146

花の本盗人 149
屋号 151
道楽棚 153
マンガ少年 156
五十年前の情報 158
ミステリー書店 161
老人の客 163
いずこへ 167
娘の散歩道を 170
蔵書目録の顔 172
読書日記 175
おふくろの味 178
貧乏神さま 179
恋文一件 182
色の恋の 185
古書目録 187
名なしの橋 190
おやじの筆名 193
手紙の錯覚 196
ほんのひと口 199
幸田さんの言葉 202
鬢のほつれ 208
十五にて本の虫となり
いろんなふるさと 215
装幀 216
トラバさん 217
思い出の庭 220
富士に立つ影の影 222
ドクダミと紫蘇と 228
騙す魅力 232

江戸の言葉 238

III

同病相憐れむ 242
母よりダンゴ 243
思い出づくり 245
バアさん語 246
残りのひと口 249
おとなのあかし 252
手みやげ 254
見合い 255
煙管 257
川中島 258
川の湯 259
過去の味 260

麺も喜ぶ 264
心を売る 264
汚れ 266
『大日本史』の影 269
ことしの一等 276
毎日記念日 279
明るく明るく 280
手本の友 283
幻のハネムーン 284
民謡 286
宮崎の匂い 288
言葉の霊 290
父の句 292
虫とぬし 294
初出一覧 300

装画·装幀　灘本唯人

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

いつのまにやら本の虫

I

蔵書目録

ページ数や経費の面でむずかしいと思うが、私は作家の個人全集には、その作家の蔵書目録を収録してほしい、と希望する者である。

作家の人となりや思想を知るには、当人が読んだ本を見るに如くはない。

書名だけではない。実は本の配置も知りたい。本をどのような順序で書棚に並べているか、これもまたその人の思想である。

個人全集で私が知る限り、蔵書目録のみならず、書物の配置まで見取り図つきでのせている全集は、筑摩書房版、島崎藤村のそれだけである。昭和四十六年に発行された別巻。

この別巻は、同時代批評や対談座談、参考文献目録等を収録しているが、実に一千ページ余もある。従って定価も本巻の三倍を越える。

藤村はどんな本を読んでいたか？　宮城道雄の著書の隣に、下村湖人の『次郎物語』がある。その隣が、城左門の詩集『終の栖』。そして次に久保田万太郎の『萩すゝき』。なんとなく面白い。

隠し書棚

他人の書棚に興味がある、というのも、一種ののぞき趣味であろう。一体どんな本を読んでいるのか、無性にのぞいてみたくなる。

ただいま私は、島崎藤村の書棚をながめている。もちろん実際の書棚でなく、藤村全集別巻にのせられている蔵書目録を見ている。奇特にもこの目録は、書棚に並べられている順序通りに作成された。藤村が何の本を何の本の横に置いたか、その意味を想像すると楽しい。大体、人はデタラメに本を並べるものではない。必ず何らかの理由で、そこに入れる。

ある棚の一番下の段は雑誌が並んでいるが、隅に九冊だけ書籍がある。書棚の見取り図が出ているので、かくの如くわかるのである。

レーニンの『国家と革命』『レーニンの弁證法』、デボーリンの『レーニンの戦闘的唯物論』、浅野晃『マルクス的方法の形成』がある。戦前は国禁の書、見つかるとうるさい。これはたぶん隠し棚であろう。

いくらぐらい

島崎藤村がどのような本を読んでいたか、その蔵書目録を見ている。

漱石全集、田山花袋全集、大トルストイ全集、近代劇全集などがある。

竹久夢二の『出帆』があり、ヘディンの『彷徨へる湖』がある。ヴァレリーを読んでいるかと思えば、ジョイスの『ユリシーズ』やプルーストの『失はれし時を索めて』も読んでいる。もっとも後者の二点は端本である。中途で投げだしたらしい。『家庭防空読本』という本もある。戦争が始まって、文豪といえども安閑としてはいられなかったのだ。

「浅倉屋古典籍目録」「対外文明資料目録」（厳松堂）がある。古本屋の販売目録である。大観堂、第一堂などの古書目録もある。

ところで藤村の蔵書は、金額に見積もるといくらぐらいだろうか？　冊数は多い。私は古本屋だから、ついこんな俗な（私には神聖な商売だが）目つきになってしまうのである。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com